

# しゅぶぴあ

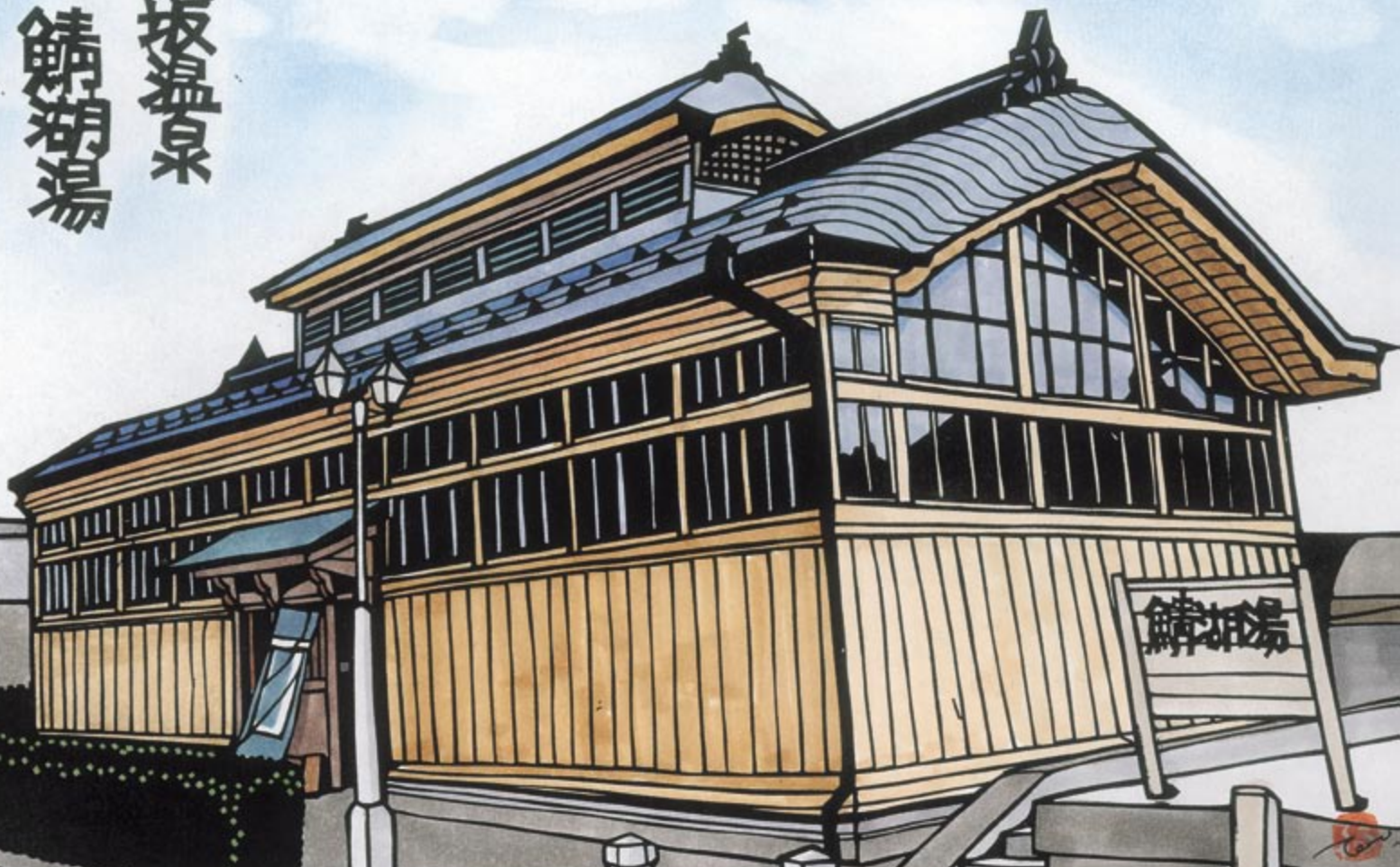
特集1 学生さんにきいてみました  
社会に出る前に私たちが思うこと

特集2 福島市男女共同参画に関する意識調査報告書から  
あなたの意識は？

- サッカーだいすき集まれ！  
女子サッカーチーム F.F.C.L' ALA (エフエフシーラーラ)
- 読んでみらんしょ 『紅一点論』  
『女たちの便利帳5』
- リレーエッセイ3 花見山は秋もサクラ満開
- 夫婦共通の夢を 自然体のパートナーシップで

NO. 24 OCTOBER 2005

飯坂温泉  
鱒湖湯





「男だから」  
「女だから」なんて  
あまり意識しません

「みなさん、今日はゼミの後に集まっていたのでありますが、大学での生活の中では男女の関係はどうですか？」

「あまり男だから、女だから、という意識はないです。先生も学生自身も特に男女で区別していることはないと思います。」

「恋愛関係でもない？ 私の知人の話では交際する「彼女」に対して料理や身の回りの世話を求める人も多いようだけど…」

「いや、そんなことはないです（笑）。好きでやる女性もいると思うのでそれは良いと思います。」

「もし私なら何か作ってくれと言われても『じゃんけんが負けたほうが作る

# 社会に出る前に 私たちが 思うこと

福島市が行った「男女共同参画に関する意識調査」(4,5ページに特集)では、家庭や職場などでまだ男女平等とは感じられない人が多いことが分かりました。

しかし、比較的平等だと感じている人が多い学校教育の中で育ち、社会人として自立の一步を踏み出そうとしている学生さんたちは、どのように感じているのでしょうか。

そこで福島大学の3,4年生と座談会を行い、就職活動や日常生活を通して男女共同参画について思うこと、そして将来の自分の生き方についてざっくりと語っていただきました。



▲福島大学の学生さんたち  
真剣にお話ししてくれました



勤務地 伏拝  
やまか 山家 涼子 さん

## 毎日を楽しみながら

私は二児の母です。それも双子です。育児休暇が終了し、3月に仕事を復帰しました。初めは、双子だし会社を辞めようかと思いましたが、経済的負担は2倍。しかし大きくなった時一気に手がからなくなる事を考え、仕事を続けることにしました。育児休暇がとれるのも、子育てしながら働いている先輩社員のおかげです。やはり、続けるには会社の環境はもちろん、家族にも助けもらっています。夫は、産婦人科で子

う」って言います。」

「僕もそういう感覚はないですね。逆に作ってほしいと言われるかも。」

「家事ができない人よりはできる人のほうがいいけど、それは男女同じことだと思います。」

「そうですね。皆さん男性も女性も同じ感覚で考えているんですね。」

## 就職活動

### 女子学生のぶつかる壁

「4年生の方も多いようですが、就職活動では何か感じることはありましたか？」

「女子の場合、面接などで『結婚したらどうするのか』と聞かれることがとても多いです。『続けたい』と答えると『いや続けられると困る』と言われる友人もいるようで驚きました。」

「あと、よく出身地を聞かれます。どうして親元に帰らないの?と」

「仕事に関する話よりも、結婚のことなどで10分以上も話したこともありました。そうすると、人材としてどう見ているのかな、あまり戦力として見てくれないのかな、と感じます。」

「例えば営業職だと、こちらが意欲を示しても、営業の大変さをものすごく強調されて覚悟を求められたり…」

「女性ということで、初めからハンデのような部分はあるのかもしれないですね。実際に結婚や出産で仕事を辞めざるを得ない女性もいますから、そこが社会全体で改善されないと同じよう



な質問が繰り返されてしまいますね。『私の受験した企業では特に女性だからという質問はありませんでした。育児休業なども積極的に取り組んでいるようでした。』

「そのような企業が増えているのはすばらしいことですね! 男性はどうですか?」

「アルバイト先のことですが、レストランでホールでの仕事をしたいと希望しても男だから厨房の中、と指示されたことはあります。」

「男女雇用機会均等法ができて表向きは誰でもチャレンジできる制度になっているけど、現実とのギャップはあるんですね。保育士、看護師、消防士など性別より個人の能力で就ける仕事も増えています。これからも広げていきたいですね。」

## 仕事、結婚、育児 どれも大切

「これから社会に出て行くみなさんは、これまで比較的男女の差別を感じなかった学生生活から、様々な生き方、生活へと変わっていきます。将来への思いや希望を聞かせてもらえますか?」

「仕事をずっと続けていきたいので、お互いを尊重できるパートナーを見つけて結婚できればいいと思います。子育てのことは具体的には考えられないけど、産みたいし、大切に育てたいです。」

「私はもちろん仕事も頑張りたいけど、子どもを優先したいので、もし仕事との両立が難しければ、職場での地位を下げたり一度やめたりという選択も仕方がないと思っています。」

「僕は状況によって、自分が育児休暇をとってもいいなと思っています。全然抵抗はないですね。あまり仕事中心の生活にこだわっていないので。子育てをすることになったら、男だから女だからというよりは、人としてどうすべきかというふうに育てたいです。」

「仕事をして自立したい、結婚をして家庭を築きたい、子どもを大切に育てたいというのは考えてみれば全く特別なことではありません。でも今はまだ、環境が十分には整っていません。多くの若い人が感じているその希望を、男女共に叶えられる社会にしていきたいかなければと、改めて感じました。今日はありがとうございました。」

### ～取材をして～

「仕事も、家庭も、育児も」と素直に話す若い学生さんたちに接して、実はそのことが今は難しく、そして非常に重要な課題であることを感じました。少子化などの問題はそこに鍵があるのかもしれない。

また、就職活動で壁にぶつかりながらも、女性だから、男性だからというこだわりはなく、抵抗なく協力し合う気持ちを表していました。人として尊重し合えるその気持ちを持ち続けられる社会にしていきたいと心から思いました。

どもたちが生まれて直ぐから、私と一緒に育児を習い、一緒に子育てをしています。職場と家が遠いため、実家に預けて仕事に向う毎日です。あらゆる面で、日々いろんな人に助けられて生活していると実感しています。子どもたちにとってどんな環境がいいのかはわかりませんが、周りの人との係わり合いや両親の働く姿を見て、何かを感じてくれればいいなと思います。私も、感謝の気持ちを忘れず、働ける限り両立して頑張っていきたいと思います。

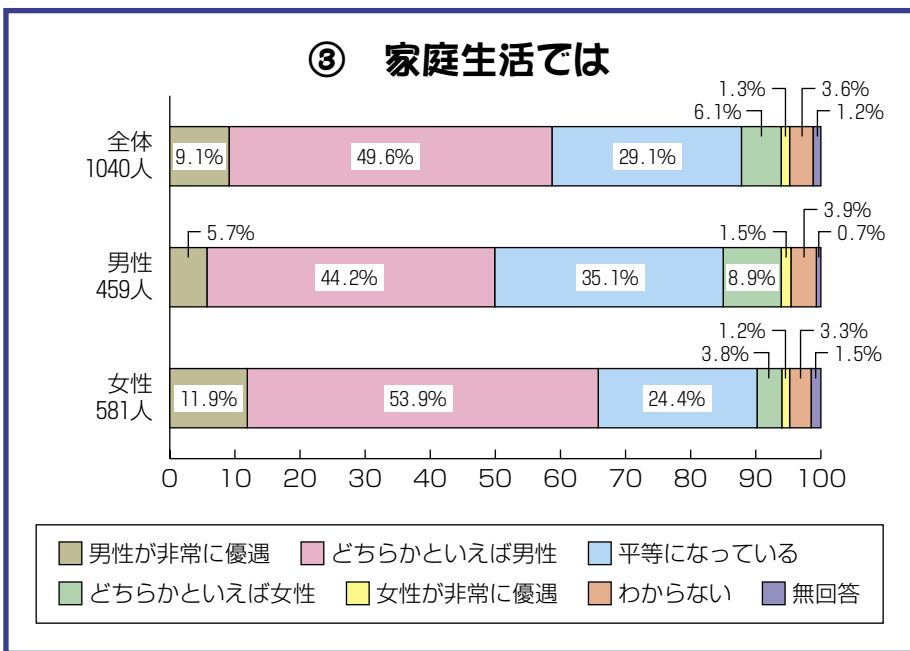
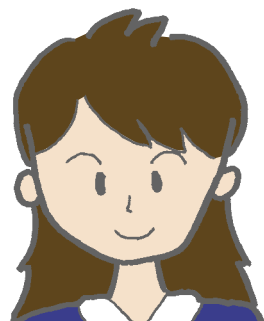
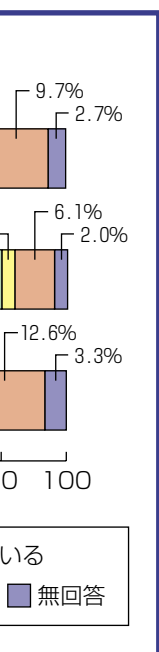
## め意識は？

福島市民の男女共同参画に関する意識や生活の実態はどうかを把握するために実施された意識調査がまとまりました。特集1では、これから社会に出る若い世代の意見を聞いてみましたが、特集2では、より広い世代の感じ方を見てみましょう。

調査の結果は、平成13年3月に策定された「男女共同参画ふくしまプラン」を、より実効性のある基本計画とするための基礎資料となります。調査結果のほんの一部ですが、ご紹介します。

おたずねします。

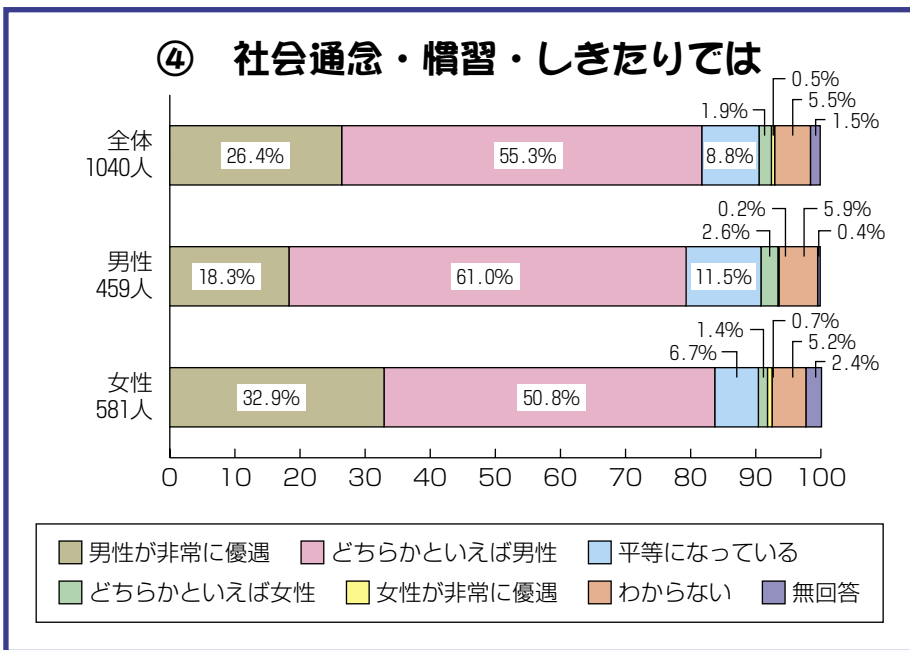
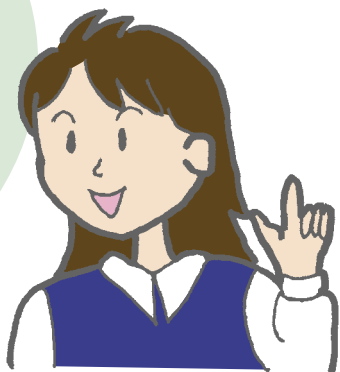
て、男女の地位は平等になって  
ものをそれぞれ一つずつ選んで

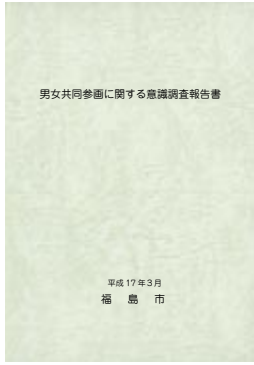


③の家庭生活では、とすらかといえば男性が優遇されていると思う人が約5割。悲鳴が聞こえてきそう。  
④の社会慣習では、8割以上もの人が男性が優遇されていると思っている！不平等だと感じない社会にしていこう！！



男女共同  
参画して  
い  
無回答

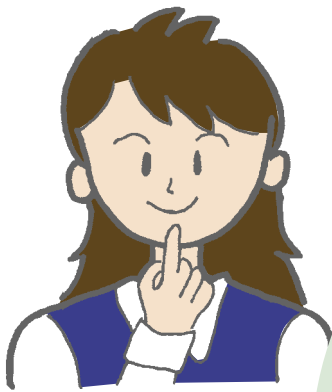




この意識調査報告書は、福島市が満20歳以上の男女2,600名を無作為に選び(有効回収率40%)作成したものです。各ページには大学教授による、調査結果の分析もあり見方の参考になります。自由記述欄には個人の本音が表現されていて興味深いです。

お問い合わせは福島市男女共同参画センターまで ☎024-525-3784

お問い合わせは福島市男女共同参画センターまで ☎024-525-3784



大学生の座談会でもわかるように、①の学校教育の場では、不平等だっ感じる人は少ないみたい。でも②の職場では一転して男性が優遇されていると思うのネ。学生諸君の夢が挫折しないといいナ。

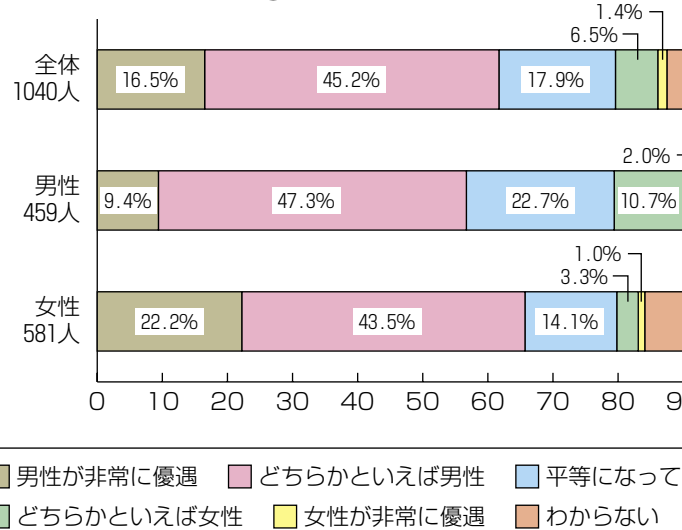
# 福島市男女共同参画に関する

## ? あなたの

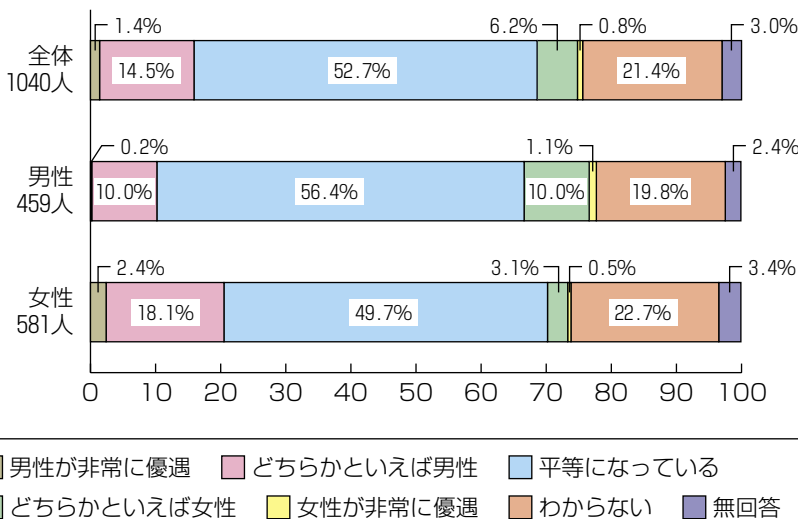
### 質問1 日頃からの考えについて

あなたは、次あげる①～④のことについてどう思いますか。あなたの感じ方に近いください。

### ② 職場では



### ① 学校教育の場では



一般の人たちの意識の中に、参画という考え方はまだ十分に浸透しているとはいえない。男女は社会の構成要素であり、どすらの人権も同じようなければならないということをきちんと認識しないからこそ、ドメスティック・バニタリなどの重大な人権侵害が起るよネ。女性がもっと意思決定の場に入ることや男性の意識改革を進めなければ!

サッカーだいすき集まれ!

# 女子サッカーチーム F.F.C.L'ALA (エフエフシーアラ)

小学生の時に県北のクラブチームでサッカーをやってきた女子中・高生を中心に、平成14年に結成されたチーム。

監督の片桐美智哉さんは「サッカーを楽しもう」を合言葉に、コーチの小野三千雄さんと、毎週木曜日の夜と日曜日の午前中の週2回指導にあたっています。

キャプテンの三島亜弓さん(高3)は「気合いは、どこにも負けません。」と底抜けに明るいチームのムードメーカー。「ゴールにいても、後姿でチームメイトの調子がわかる。がんばっているのを感じると嬉しい。」とキーパーの千葉歩さん(高1)。彼女は、高校のサッカー部に所属して男子と一緒に練習している。メンバーのほとんどが、お兄ちゃん

サッカー練習に付き合っているうちにサッカーが好きになったとのこと。子育てに男女差をつけず好きなことをさせた両親のサポートが子どもの夢を育んできたのでしょう。ボールの大きさ、コート

の広さは男女とも同じ。試合時間が女子は前半後半25分ずつの50分。世界クラスは男子と同じ試合時間だとのこと。また、メンバーには中国大連市のサッカー専門学校の同級生で、現在二本松市在住のソン雪琴さんと阿部暁琳さんも活躍。日本語を勉強しながらチームメイトに中国で鍛えた技を教えています。7月23日に

喜多方押切川公園で開催された福島県総合体育大会サッカー競技成年女子の部では、昨年引き続き優勝、2連覇を達成しました。F.F.C.L'ALAファイト!



赤のユニフォームでせいぞろい。  
後列 左から 片桐監督、佐野、ソノ、阿部、菅野、三島(明)、千葉  
前列 堀内、三島(亜)、古内、大橋、鈴木(藍)、鈴木(滯)、小野コーチ のみなさん



## BOOKS

## 読んでみらんしよ しゅぶぴあ おすすめの本



**紅一点論**  
～アニメ・特撮・伝記のヒロイン像～  
斎藤 美奈子著  
ビレッジセンター出版局 1,785円  
筑摩書房 819円  
「男の中に女がひとり」は、テレビやアニメで「なぜ?」と思

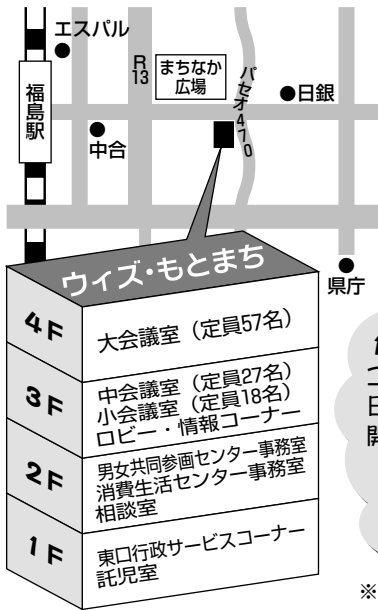
わせないくらい非常に見慣れた光景。  
確かに〇〇レンジャーの「ピンク」は、子どものころから共感できなかつた。最近になってやっと水色の女性レンジャーが登場し、5人の内2人が女性という編成になってきたものもある。  
子どもの頃から慣れ親しんだアニメや伝記を題材に、いかに『女の子向け物語』と『男の子向け物語』が区別されているか、物語が一体どんなメッセージを発しているか、著者はすっきりぱっさり斬ってくれる。また、物語に祭り上げられている女性がいかにステレオタイプかということを見て付ける。



**女たちの便利帳 5**  
女たちの便利帳5 編集室  
ジョジョ企画・発行  
教育史料出版会・発売 2,940円

各地で活躍する女性たちの情報が満載。掲載されている個人やグループの活動内容は多岐に渡っている。シェルターや相談できるところなど、ドメスティック・バイオレンスや性暴力の被害者を自分たち自身で支える活動団体も紹介。専門職の、例えば医師や弁護士・議員の名前もある。女性だけでがんばっている農業者や工房、編集オフィスなども紹介。基本的には都道府県別に、連絡先として郵便物のあて先やファックス番号が載っている。  
全国各地、たくさんの女性たちが、現在進行形で、自分と同じように根を張って生きていることが、実感として分かる。すべての女性たちへ送るスペシャル(特別)な電話帳。

# 「ウイズ・もとまち」をぞ利用下さい



男女共同参画をすすめる  
団体等に**3F・4F**の会議室を  
お貸ししています。  
午前9時～午後9時まで利用で  
きます。  
くわしくは、**2F**男女共同参画  
センター事務局へ  
TEL 024-525-3784

**3F**ロビーはご自由に。  
図書コーナーもあります。

**2F**男女共同参画センター相談室では  
ドメスティック・バイオレンスや人権問題、  
夫婦関係の相談をお受けしています。  
相談受付  
TEL 024-522-1520  
月・水・金曜日 午前9時～午後4時

**1F**東口行政サービス  
コーナーでは、仕事帰りや  
日曜日などにも住民票等がとれます。  
開所時間  
平日(月～金曜日) 午前9時～午後7時  
土・日曜日 午前9時～午後5時30分  
TEL 024-524-3717

**2F**消費生活センターでは、消費生活  
相談、ひまわり号学習会、出前講座など、  
生活に役立つ情報を提供しています。  
事務局 TEL 024-525-3774  
相談受付 TEL 024-522-5999  
月～金曜日 午前9時～午後4時

※休館日：国民の祝日及び12/29～1/3  
国民の祝日が日曜日と重なった場合は開館、翌月曜日が閉館

## 11-Issue 3

### 花見山は秋もサクラ満開

ふくしま案内人  
花野 十郎

サクラの花は、一年中、日  
本のどこかで咲いていること  
をご存じでしょうか。

福島の花見山公園はサクラ  
の名所として、全国的に知ら  
れていますが、いわゆる公園  
とは違って、阿部一郎さんが

花木を栽培している農場なの  
です。それを阿部さんの好意  
により、公園として無料で開  
放している花の名所です。花

見山には、十数種類のサクラ  
が植えられており、春三月下  
旬ロトウザクラから始まりア

マノカワサクラの五月初旬ま  
で、次々ときれいに咲き誇り  
ます。

ここに、ちょっと変わった  
サクラがあります。秋に満開  
に咲くサクラがあつたので

す。ジュウガツザクラと言  
う品種で四季咲きサクラの一  
種です。四月頃にも咲きま

す。この時はまばらな感じで、  
十月頃に咲き始め、十一月か  
ら十二月にかけて見事な満開  
になります。

このジュウガツザクラは八  
重咲なのですが、一見一重咲  
きに見えます。と言うのはサ  
クラの花は、基本が五弁花で

すが、このサクラは花弁が十  
弁あるのです。基本の倍以上  
つまり十弁以上花弁があると

「八重咲」というのです。と  
ころがサクラの中には、花弁  
が六枚、八枚と言うのもあつ  
て、これらは「半八重咲」と  
言います。

このサクラは花見山の下の

ほうからは全く見えません。  
花見山の頂上の東屋に行つて  
もまだ見えません。その東  
屋から、さらに少し、「しの  
ぶの細道」の方に足を進める  
と、この時期に、十数本の満  
開のジュウガツザクラが待っ  
ています。後の山のコナラや  
カエデなどが紅葉できれいに  
染まった中、見事な満開のサ  
クラ見物も乙なものです。昨  
年十二月一日に行つた折には、  
行ったものみんなで歓声をあ  
げました。あなたも、小春日  
和の一日ぜひ一度、足を運ん  
でみてはいかがですか。

(しのぶぴあ編集委員)





## 夫婦共通の夢を



# 自然体のパートナーシップで

夫が子育てに専念し、妻が家計を支えるという生活を約2年間経験された松崎剛史さん・順子さんご夫妻。自然学校をつくりたいという夫婦共通の夢に向かって、自然体でお互いを支え合うお二人にお話をうかがいました。

2年間、専業主夫をされたいたそつですね？

**剛史さん** 現在は県民運動の推進拠点である「オフイスうつくしま」のスタッフとして働いていますが、平成15年4月から約2年間、子育てに専念していました。

実は夫婦揃ってアウトドア派で、いつか自然学校をつくりたいと考えています。以前は一級建築士として建設会社で現場管理の仕事をしていたのですが、その夢に向けて活動を開始するため、思い切って仕事を辞めました。仲間たちと任意団体子どもチャレンジクラブ「虹色の種」を立ち上げ、専業主夫をしながら、子どもたちが自然とふれあう活動をしてきました。

**順子さんは反対なさらなかったのですか？ また周囲の反応はいかがでしたか？**

**順子さん** 反対どころか私が辞めることを勧めたくらいです。私たちには特別なことをしているという意識はなかったのですが、結構周りからの反響は大きかったですね。私は産前産後の半年間だけ休んで職場復帰したのですが、「母親としての権利なのだ

からきちんと育児休暇を取すべき」などと言われました。育児休暇はあくまでも「権利」なのに、まるで「義務」であるかのように言われたのが辛かったです。

**剛史さん** 周りの目はあまり気になりませんでしたが、妻に対して多少負い目を感じていたことは事実です。でも、自分たちが楽しく暮らせていたから、これいいと思っていました。

**適材適所で役割分担なさっているわけですね？**

**順子さん** 私は仕事を休んでいる間、社会との関わりが希薄になっていくことに不安とあせりを感じていました。私は子育てに専念するのは向かないなと思いました。

**剛史さん** 僕は家事もぜんぜん苦にならないし、ずっと子どもと一緒にいることにストレスを感じたことはありません。妻の「家にはたかない」という感じ方が逆に不思議でした。

**順子さん** 以前、主人が仕事をしているときはほとんど

ど家にいないし、常に疲れていて、かえって不安定でした。今は本当にバランスがとれていて家庭が安定していると感じています。

**これからの抱負をお聞かせください。**

**剛史さん** 今後は「虹色の種」の活動をもう少し広げていきたいと思っています。いづれは拠点となる自然学校をつくり、農業体験やキャンプ、冒険教育などを実施していきたいです。山村留学の受け入れも考えています。子どもたちに、自然の中で仲間と一緒に何かをや

り遂げるといいう経験を通じて忍耐力や思いやりを養ってほしいのです。これで食べていけるようになれば最高ですが、組織や収入にはこだわらず、やりたいことをやっていければと思います。

**順子さん** 子どもが成人するまでは私が家計を支え、主人に自然学校設立の準備を進めてもらい、子どもが成人したら一緒に活動したいと思っています。

**個性と能力に応じてお互いを支え合っている松崎さんご夫婦はとても自然体で、それぞれが家族をとっても大切に思っていることがまっすぐに伝わってきました。順子さんは姉さん女房で、夫を養っているからいばっているというイメージをもたれたくないと、あえて「主人」という言葉を使っているとか。そんな気遣いが必要なくなるように、男女共同参画社会の理念がもっともっと広がってほしいと思います。**

## 編集後記

◆「こぶさび」24号の編集が、総選挙期間と重なっていたこともあり、編集会議の場でも、女性刺客についてさまざまな意見がでました。注目されている女性候補者は、高学歴で豊富な海外経験など、非常に「華やかな」経歴をお持ちの方たちです。この経歴こそ、彼女たちが候補者として選ばれた理由のひとつなのではいっしょか。これまで男性議員のなかには、元官僚も大学教授もいました。しかし、今回の女性候補者たちのように騒がれなかったように思います。つまり、女性は男性と同じ土俵で評価されていないように思われるのです。女性刺客と呼ばれる候補者の選定は、男性によってされました。結局、政治という社会に女性が入るためには、男性に「選んで」もらわなければならないのかと暗澹たる気分になりました。それでも、声を出していかなければならない声をお届けします。

◆表紙の切り絵 今号は、飯坂にある「鯖湖湯」です。「鯖湖湯」は、元禄二年（一六八九年）奥の細道の途中、飯坂に立ち寄った松尾芭蕉が湯につかったと伝えられる名湯です。現在の建物は平成五年十二月に改築されたものです。利用料・大人二〇〇円、小人一〇〇円。飯坂温泉駅徒歩五分。

## 育児こそ 男女共同 参画で

—牛角

◆今回の川柳は、久保牛角さん（南向台）のお寄せくださったものです。引き続き皆様からの投稿をお待ちしております。はがきまたはフロックスでお寄せください。採用分には、ささやかながら記念品を差し上げます。

編集 し の ぶ び あ 編集委員会

阿部勢津子（瀬上町）阿部陽子（土名倉）石高久美子（矢剣町）久保哲二（南向台）高橋隼子（町庭坂）中村利信（松浪町）半澤敦子（上島渡）平野和子（八木田）水嶋いづみ（松山町）湊園実（方木田）渡辺真由美（黒石）

表紙協力 切り絵作家 さとうてるえさん（宮下町）

※「こぶさび」は、3月と10月発行。各学習センターなど市の窓口にあります。また、福島市のホームページでもご覧いただけます。

